

Ⅱ 児童生徒のキャリア発達を促す 授業実践

Ⅱ 児童生徒のキャリア発達を促す授業実践

1. はじめに	17
Ⅱ－1 小学部の実践	19
Ⅱ－2 中学部の実践	43
Ⅱ－3 高等部の実践	57

II 児童生徒のキャリア発達を促す授業実践

1. はじめに

本校では、今年度も各部で児童生徒のキャリア発達を促す授業実践を行った。

昨年度の実践は、I章（3～6ページ）で記したとおりであるが、昨年度の成果と課題を受けて、今年度は授業実践を行う際に、以下のように充実改善を行った。

【単元の目標と評価を明記する】

今年度実施した研究フォーラムでは、講師の菊地一文氏（青森県教育庁学校教育課特別支援教育推進室指導主事）から次に挙げる助言をいただいた。

キャリア教育の定義は、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」なのです。（中略）ここで示されているのは、「能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す」という、いわゆる「教科等において、どんな力を育てるのか」というアプローチを前提としているのです。「そのことを通して、どのような子どもたちの（物事への）向き合い方に変化が見られているのか」ということを見るわけですから、そこで、必然的に私が知りたくなるのは、「これらの授業の中で、何を育てることをねらった授業なのか」というのが前提にあったと思うのです。そこを明確にしたうえで、物事への向き合い方の変化というのが、内面の変化であったり、行動の現れの変化であったりと関係していると思います。（中略）ですから、目標との関係と、プロセスのところを丁寧に記録していくとよいと思いました。

本校では、これまでも授業の目標に対する評価と、授業を通じた児童生徒の「内面」の変化の両方を捉えていたが、研究紀要や研究発表では、児童生徒の「内面」の変化に重きが置かれ、授業の目標と評価について、あまり明記されて来なかった。そこで、今年度は、単元の目標と評価についても明記するようにした。また、部研究会で授業実践について検討する際には、〈様式1〉を使用することにした。

【児童生徒の「内面」を推察するための様式を作成して使用する】

昨年度実施した教育研究会で、参加者の方々から多くの質問や意見をいただいた。質問の中で多かったのは、「児童生徒の『内面』をどのように推察しているのですか」というものであった。それに対して、学校としての十分な回答ができなかった。それをふまえて、今年度は、児童生徒の行動や言動などから「内面」を把握するための様式〈様式2〉を作成した。

研究フォーラムでは、昨年度の実践（小・中・高）について〈様式2〉にまとめたものを提案した。それに対して、「実践経過を、生徒の内面から時系列で縦断した評価は分かりやすかった」という意見があった。そこで今年度は、各授業実践でも〈様式2〉を使用することにした。

【職員研修で学んだことを授業実践に生かす】

今年度実施した職員研修で学んだことを可能な範囲で授業実践に生かすことにした。

小学部では、3月に行ったワークショップで提示されたキャリア教育のキャッチフレーズ（国

